

平成 30 年 10 月の解説（週間天気予報）

【10 月の天候状況】

9 月終わりから 10 月上旬にかけて、台風第 24 号と第 25 号が相次いで日本付近に接近、通過しました。台風第 24 号の影響で、東日本で記録的な暴風となったほか、北日本太平洋側を中心に大雨となりました。また台風第 25 号の影響により、西日本や北海道地方を中心に大雨となり、九州や東北地方を中心に記録的な暴風となった所もありました。降水量は、沖縄・奄美では台風の影響で、北日本太平洋側では台風や低気圧の影響で、それぞれかなり多くなりました。一方、東日本では台風や湿った空気の影響を受けにくく、降水量は少なくなりました。気温は、北日本や東日本、西日本では、本州の南東海上で太平洋高気圧が強かったことや相次ぐ台風の接近、通過に伴って暖かい空気が流れ込んだため、かなり高くなりました。特に 6 日には新潟県三条で日最高気温 36.0℃を観測し、10 月として歴代全国 1 位の高温となるなど、5 日から 7 日にかけては、東日本と西日本日本海側を中心に台風による暖かい空気の流入に加えてフェーン現象の影響で顕著な高温となりました。一方、沖縄・奄美では、北からの冷たい空気が流れ込みやすく、気温は低くなりました。

中旬は、北日本から西日本では天気は数日の周期で変化しましたが、北日本では高気圧に覆われやすく、晴れた日が多くなりました。一方、西日本の南海上から東日本の南岸には前線が位置しやすく、前線に近かった東日本太平洋側では曇りや雨の日が多く、日照時間はかなり少なくなりました。沖縄・奄美でも、前線の影響を受けて曇りや雨の日が多く、降水量はかなり多く、日照時間はかなり少なくなりました。また、西日本と沖縄・奄美では、北から冷たい空気が流れ込みやすく、気温は低くなりました。

下旬は、29 日から 31 日にかけて北日本や東日本の日本海側では気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨、山沿いの一部で雪となったほかは、全国的に高気圧に覆われて晴れる日が多くなりました。また、北日本や東日本では、26 日にかけて南から暖かい空気が流れ込みやすく、気温は北日本でかなり高く、東日本でも高くなりました。

月平均気温は、北日本でかなり高く、東日本で高かった一方、沖縄・奄美ではかなり低く、西日本は平年並でした。月降水量は、東日本太平洋側でかなり少なく、西日本太平洋側で少なかった一方、北日本日本海側ではかなり多く、北日本太平洋側と沖縄・奄美で多く、東日本日本海側と西日本日本海側は平年並でした。月間日照時間は、北日本日本海側と西日本太平洋側で多かった一方、沖縄・奄美では少なく、北日本太平洋側と東日本、西日本日本海側は平年並でした。

【10 月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は、例年値^{（注）}より 2 ポイント高い 75%でした。各地方の適中率は、北日本と関東甲信地方、近畿地方、九州北部地方、九州南部地方、沖縄地方では例年値を上回り、特に東北地方では例年値よりも 8 ポイント高くなりました。最高気温の予報誤差（2～7 日目の平均）は、全国平均では例年値より 0.3℃小さい 1.8℃で、すべての地方で例年値以下となりました。最低気温の予報誤差（2～7 日目の平均）は、全国平均では例年値よりも 0.2℃小さい 1.8℃で、すべての地方で例年値以下となりました。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【12 月の週間天気予報の利用にあたって】

12 月は本格的な雪の季節の始まりとなります。北日本では雨よりも雪となる日が次第に多くなり、天気予報では降水が雪となるか雨となるかが重要なポイントとなります。

天気予報では、「雪」や「雨」という予報だけではなく、雪になる地域や時間帯の割合が大き

いときは「雪か雨」、また、雨になる割合が大きいときは「雨か雪」と発表しています。これにより雪の可能性がわかりますので、雪への早期の備えに週間天気予報をご活用ください。